

リーディングDXスクール事業【実践事例】

神戸市立須磨北中学校（神戸市）【指定校】

【取組内容】 ①「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実による学びの質の向上

本校では、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実のために、学校全体で統一した取り組みを行っている。この取り組みを通して、生徒一人ひとりの学びを深めるとともに、協働的な活動を通じて多様な視点や考え方を共有し、学びの質を向上させることを目指している。

◎本校での取り組み内容

ICTの活用

各教科でOneNoteやTeamsを活用し、生徒が自分の考えを記録したり、みんなで共有したりするようにしている
→他者の意見を参考にしながら自分の考えを深めることができる

ペア活動、グループ活動の導入

各教科でペア活動、グループ活動を取り入れ、生徒同士がリアルに意見を交換し合う機会を増やしている
→他者参照による間接的な情報収集だけでなく、直接的な対話を通して多様な視点を取り入れ、自分の考えを広げることができる

フィードバックの実施

生徒同士や教師からのフィードバックを積極的に行う時間を設定し、TeamsやOneNote、Formsを効果的に活用している
→気づきを深めることができるなど、学びの質を向上させることができる

◎各教科の具体的な取組について

・1年美術科

鑑賞の授業において、OneNoteを通して教材を提示し、気づいたことをできる限りたくさん挙げ、他者参照することによって、さまざまな視点での見方ができるようになった。
⇒自分が気になった部分を拡大するなど、じっくり鑑賞でき、個別最適な学びを進めることができるとともに、自分の考えを他者と共有することによって、協働的な学びにつなげることができた。

・1年技術科

OneNoteに手順書を準備し、生徒の主体的な学びを促進した。
⇒自分のペースで学習を進め、困った時には動画を見返すことで個別最適な学びを促進することができた。
また、作品の製作にあたっては、必要に応じて協力し合いながら安全かつ効率的に作業を進めることができた。



OneNoteを通して教材を提示
(美術科)

リーディングDXスクール事業【実践事例】

神戸市立須磨北中学校（神戸市）【指定校】

【取組内容】 ①「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実による学びの質の向上

・1年音楽科

鑑賞の授業において、ジグソー法を用いて民謡の音楽的特徴や背景をグループで考察し、伝える活動を行った。
⇒鑑賞の際は、曲をOneNoteを通して配信。ヘッドセットを活用し、自分の担当する民謡について、自分の気になる部分を繰り返し聞き深く考える（エキスパート活動）。次時、4つの民謡の音楽の特徴と、その背景となる文化や歴史との関わりについて理解する（ジグソー活動）。



OneNoteで音源を共有
ジグソー法で学習を深める（音楽科）

・1年国語科

OneNoteを活用し、課題についてクラウド上での意見交換やグループ活動を実施。
⇒「個→協働→個」の順で学びを構成することによって論理的思考力と表現力の向上。



OneNoteで共有したことを
基に意見交換（英語科）

・2年英語科

校則を題材に助動詞の使い方を学び、理想の校則を考える活動を行った。TeamsやOneNoteを活用して他の班からフィードバックを受けることで、より良いアイデアを得たり、英文の内容について意見交換を行ったりした。
⇒実践的な英語力を身につけるとともに、協働的な学びを通じて自信を持って発表することができた。

・2年社会科

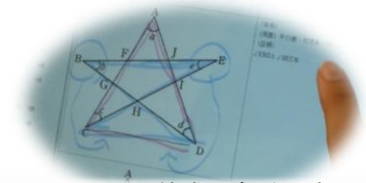
北海道の地理に関連して、観光ツアーのプランニングを行う活動を通じて、地域の特色や観光資源を理解し、実践的な学びを促進。各班のコンセプト、一番の売り、魅力をOneNoteにまとめる（共同編集）。
⇒ペルソナ設定により、具体的なニーズに応じたプランを考えることで、地理的な知識を応用する力の育成。



観光ツアーのプランニングを
OneNoteで共同編集（社会科）

・2年数学科

星型五角形の角度の和を求める課題を通じて、OneNoteを活用し他者の考えと自分の考えを比較しながら学びを深める活動を行った。
⇒個別最適な学びを通して数学的な思考力を養い、協働的に問題を解決する力をつけることができた。



OneNoteで他者と自分の考えを
比較、思考の深化（数学科）

・2年理科

気象データから天気予測を行う課題を通して、個で気象データの分析・視覚化、グループで天気予測についての対話を行った。
⇒個でデータを分析、科学的根拠に基づいた天気予測。グループでの対話を通じて問題解決力を育成。

リーディングDXスクール事業【実践事例】

神戸市立須磨北中学校（神戸市）【指定校】

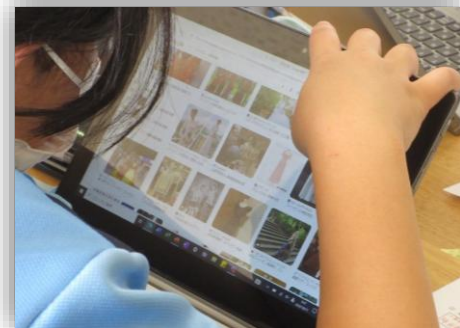
【取組内容】 ②情報活用能力の育成

本校では、情報活用能力の育成に関連した取り組みを意識的に行っている。これらの取り組みを継続して、生徒一人ひとりの情報活用能力の育成を図り、これからの情報社会に対応できる力を育んでいきたい。

「知識および技能」の育成

情報と情報技術を適切に活用するための知識と技能

- ・キーボードによる入力（例）Forms、OneNote等を活用した振り返り
 - ・写真撮影、画像編集(トリミング等)（例）必要な情報をOneNote、PowerPoint等にまとめる
- インターネット上の情報の閲覧・検索
- ・妥当性や信頼性を吟味しつつ、自分の必要な情報を得る力
（例）調べ学習や資料の活用を通したインターネット上の情報の検索



「思考力、判断力、表現力等」の育成

必要な情報を収集、整理、分析、表現する力

- ・情報収集、整理：情報を収集し、Excel等を活用して情報を整理・分析する力
（例）気象データからExcelで図式化・グラフ化（情報を整理）して、根拠に基づいて天気予測（分析）を行う（理科）
- ・情報の表現：プレゼンテーションや意見交換を通じて、情報を効果的に表現し伝える力
（例）観光ツアーのプランニングをプレゼンテーション（社会科）



「学びに向かう力、人間性等」の涵養

多角的に情報を検討しようとする態度

- ・新たな視点を受け入れて検討しようとする：OneNote等による共同編集・他者参照を通して、様々な見方や感じ方を学び、異なる価値観を知る
（例）絵画の鑑賞（美術科）、図形の角度を求める問題（数学科）など

責任をもって適切に情報を扱おうとする態度

- ・情報の大切さ：情報の発信ややりとりにおけるルールやマナーを学ぶ
（例）クラウド上での意見交換など共同編集にあたって、他者及び他の班が作成したデータを大切に扱う（全教科）



リーディングDXスクール事業【実践事例】

神戸市立須磨北中学校（神戸市）【指定校】

【取組内容】④校務DXから授業DXへ（標準仕様とクラウドを活用し教員の働き方改革につなげる取組）

進まない端末活用

環境は整備されたが、教員および生徒の
端末活用が思うように進まない・・・

一人一台端末の必要性に関する認識

- ◎ パソコンを活用する力は必要である
- ◎ 視覚的な支援が行いやすい
- 使用しなくても学習ができる
- 端末の活用法がわからない

↓
端末を活用することは有用であると
理解しているが、一歩が踏み出せない

本校の課題と取り組むべき内容

- ・個人の活用能力に差がある
- ・活用方法がわからない
⇒ **実践共有の期間を設定**
- ・共同編集のやり方がわからない
- ・クラウド環境での作業に慣れていない
⇒ **校務DXをすすめる**

ここが変わった！

実践の取り組み

- ① 端末を活用した研修機会の充実
 - ・校内研修や合同研修の実施
(研修テーマの設定、実践共有の場を持つ)
- ② 校務DX化の推進
 - ・日報のDX化 (Teams×Excelの活用)
 - ・アンケートのDX化 (Formsの活用)
 - ・授業記録のDX化 (OneNoteの活用)

- ・ I C T 機器、端末の活用率の上昇
- ・ クラウド環境の積極的活用
- ・ 学習用パソコンの活用機会の増加
- ・ 授業実践の幅の広がり

個別最適な学びと協働的な学びの
充実のための、さらなる授業改善へ

校務DXから授業DXへ

本校の課題

- ・個人のICT活用能力に差がある
- ・活用方法がわからなくて困っている
- ⇒ **①実践共有の機会を設定する**
- ・共同編集のやり方がわからない
- ・クラウド環境での作業に慣れていない
- ⇒ **②校務DXをすすめる**

校務DXから授業DXへ

①研修機会の充実

- | | |
|-----|------------------------------------|
| 4月 | ・教員への活用状況アンケートの実施 |
| 5月 | ・校内研修 (デジタルドリルの活用) |
| 6月 | ・校内研修 (Forms, OneNote, 共同編集機能の使用法) |
| 7月 | ・校内授業研究協議会の実施 (3週間) |
| 8月 | ・デジタルリテラシー研修 (1週間) |
| 9月 | ・生徒への授業アンケートの実施 |
| 10月 | ・小中合同研修会 (参観参観) |
| 11月 | ・校内研修 (一人一台端末活用の実践について) |
| 12月 | ・校内研修 (デジタルドリルの活用、OneNoteの活用) |
| 1月 | ・校内研修 (教室プロジェクターの活用、1人1台端末活用事例の共有) |

校務DXから授業DXへ

①研修機会の充実



校務DXから授業DXへ

②積極的に校務DX化を推進

- ・日報のDX化 (Excel) ※Teamsで共同編集
リアルタイムで情報共有
- ・アンケートのDX化 (Forms)
クラウド上で配信 & 回収
- ・授業記録のDX化 (OneNote)
校内研修の円滑化、効率UP

校務DXから授業DXへ

日報のDX化 (Excel) ※Teamsで共同編集
リアルタイムで情報共有

共同編集でも編集可能
職員の時給、学年の連絡
情報共有等を情報共有

校務DXから授業DXへ

アンケートのDX化 (Forms)
クラウド上で配信 & 回収



校務DXから授業DXへ

授業記録のDX化 (OneNote)
校内研修の円滑化、効率UP



校務DXから授業DXへ

なぜ校務DXなのか

- ・さまざまな場面で校務DX化を進める
- ・普段からクラウドやアプリを使う環境にする
- ⇒ **クラウド感覚が高まる**
- ⇒ **活用方法の選択肢が増える**
- ⇒ **授業DXのハードルが下がる**

本校のDX化の歩み

2024.4 ⇒ 2024.10 の変容まとめ

	4月	10月
授業での教師のICT活用	7.1%	8.9%
授業での端末の活用	4.8%	7.6%
生徒に端末を 使用させる目的	調べ学習 発表資料の作成	授業資料の クラウド化 共同編集の活用
クラウド環境の活用	4.7%	5.3%

研究のまとめ

教師が活用
方法を知る



校務を通して機能を学ぶ
⇒ 操作に慣れる
教師間で活用方法を共有する
⇒ 指導の選択肢が増える



リーディングDXスクール事業【実践事例】

神戸市立須磨北中学校（神戸市）【指定校】

【取組内容】⑤小中連携、有識者の助言による発展的な実践事例の創出（指定校の努力目標として掲げた実施内容）

リーディングDXスクール事業の中で取り組みたいこととして掲げ、実施したことについて紹介する。

①小中学校の連携

目 標：小学校から引き継ぎ、生徒の生涯にわたって役立つ
情報活用能力を、9年間を見通して育成する。

- ・小中学校の管理職・担当者、教育委員会事務局担当者間での Teamsによる連携 ⇒小中学校の情報共有の促進
- ・8月小中学校合同研修会を実施（下図参照）
⇒小中学校での交流の時間をとり、活用状況の共有を行う
- ・11月研究会（須磨北中学校）、12月研究会（若草小学校）の相互授業参観、学校DX戦略アドバイザー兵庫教育大学大学院 森山潤教授の講演
⇒小中相互の授業から、さらに活用のアイデアを得て、今後の活用の示唆や刺激を受ける



8月小中学校合同研修会の様子

それぞれの学校での様子がわかり、
参加者の端末活用への意識の変容が見られる
「教員のマインドセットを変えていく」
「使える場面でどんどん使っていく」

Teamsチャットによる
参加型研修

②有識者の助言による発展的な実践事例の創出

目 標：研究者等の有識者の助言を受ける機会を定期的にとり、
発展的な実践事例が創出できるような仕組みづくりを行う。

- ・国際大学GLOCOM主幹研究員 豊福晋平准教授に、小中合同研修会講師として「デジタルシティズン教育について」講演を依頼
→「善き使い手を育てる」ことの必要性⇒端末活用の意識が高まる
- ・学校DX戦略アドバイザー兵庫教育大学大学院 森山潤教授に、複数回、視察および研修を依頼
→「端末活用の5step」として活用の示唆を受ける
⇒**校務DXの促進**
- クラウド活用と相性の良い「授業デザイン」について、様々な端末活用（ジグソー法等）の示唆を受ける
⇒**ジグソー法**を組み込んだ授業デザインを積極的に導入
（国語、社会、音楽 等）

校務DXの促進
（Teamsでの情報共有）ジグソー法を組み込んだ
授業デザイン